

子どもを見守り、 情報モラルを育成しよう！



北海道立教育研究所附属情報処理教育センター

各家庭で子どもたちに「情報モラル」の育成を！

今、多くの子どもたちは携帯電話を持ち始めています。高校生ともなるとほぼ100%近くの子どもたちが持ち始めているというデータもあります。

さらに以前のような通話がメインの携帯電話ではなく、現在はあくまでも電話は付属機能程度で、自分が使いたいアプリをダウンロードし、また気軽にインターネットの世界に接続できるスマートフォンのような機種が主流となり始めてきています。そしてあるアプリをダウンロードすれば、通話すらもネット回線で、無料でできるという状況です。(パケット代は別途かかります。)

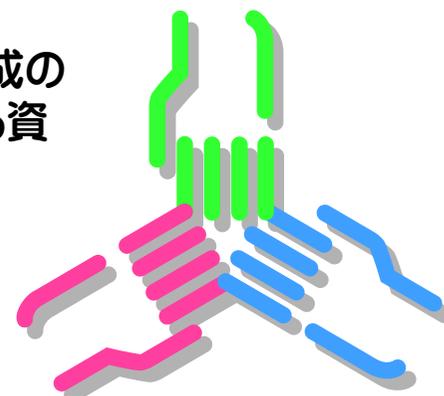
子どもたちのスマートフォン所持率も上がってきています。子どもたちにとってもますます身近なインターネットの世界となってきています。

今、携帯電話を持たせる、持たせないではなく、この情報社会の中において、子どもたちが健全な社会を構築していく一人の人間として、学校はもちろんのこと、各家庭においても「情報モラル」を育成していくことが必要です。

子どもたちにとっても、身近になっているインターネットの世界に触れるにあたり、各家庭でどのように見守っていけばよいのかを考える判断材料の一つとして本資料を活用していただければと考えました。

また学校においては参観日や学校行事等の場を利用し、「情報モラル」育成の重要性を語っていただく際に、保護者へ配布していただき、広く理解を求める資料として活用していただければと考えています。

学校と各家庭が子どもたちのために協力し合い、双方で子どもたちを見守り「情報モラル」を育成していきましょう！



携帯電話を持たせる前に

保護者が携帯電話を持たせてよかったと思う理由

- 1位 子どもの場所が把握しやすくなった。(60.5%)
- 2位 帰りが遅くなくても心配なくなった。(54.2%)
- 3位 登下校等の帰宅時の安心感が増した。(53.0%)



※データ出所:「平成23年度青少年のインターネット利用環境実態調査」(平成23年10月 内閣府)

携帯電話を「誰のために?」「何のために?」持たせるのでしょうか?

「子どもの防犯!安全、安心のため!」「塾や習い事における送り迎えの連絡に便利!」などいろいろな理由があつての回答だと思います…。

本当に子どものため?になるのでしょうか?

誰のための携帯電話なんなのでしょうか。本当に子どものためとなるのでしょうか。子どもを本当の意味で「守る」という視点のもと、持たせる前にしっかり考えていただければと思います。

携帯電話がなかった頃

携帯電話がなかった頃は家族間の連絡、友だちとの会話など、みなさんどうやっていましたか？もしかしたらもう携帯電話があったという方もいらっしゃるかもしれませんが…。

携帯電話が普及する前、例えば友だちの所に遊びに行く時、「いつ」「どこに(で)」「誰と」「何をしに」「何時に帰る」など具体的に保護者に伝えていたのではないのでしょうか。保護者が在宅でない場合は、紙などに書いて必ずわかるようにして出かけていたことと思います。

また帰りが遅ければ心配して探したり、所在がわかっていたら迎えに行ったりしていたと思います。

「便利」さに目が向きがちですが、「大切なこと」を見失っていませんか？

本当に必要なもの、大切なこと、見直してみてもいかがでしょうか？



望ましい情報社会の創造に参画していく態度を 育成していくために

遅かれ早かれ、子どもたちはいずれは携帯電話を持つようにはなるでしょう。また、インターネットの世界には、学校に行けば誰もが触れることになります。

学校だけで、情報モラルを指導すればよいのか？

そんなことはありません。 携帯電話を持つとしたならば、使用する時間帯は登下校時、放課後、家に帰ってから寝るまでになってくることと思います。そうすると、**家庭の目が必要**になります。

携帯電話を持たせないから大丈夫という方もいらっしゃるかもしれませんが。しかしよく家の中を見渡してみてください。インターネットにつながる機器がありませんか？

例えば、自宅にあるパソコン、家庭用ゲーム機、携帯ゲーム機、ポータブルメディアプレーヤーに情報端末機能が付いた機器など…。

子どもたちはいつかはインターネットの世界に触れていきます。子どもたちが望ましい情報社会の創造に参画していく態度を育成するためにも、**学校と家庭が協力し合っていかなければなりません。**



インターネットの世界に触れる前に…

**あいさつがしっかりでき、礼儀正しい子どもを
育成しましょう！**

あいさつは人とコミュニケーションをとるための第一歩です。まずは大人が手本を示していきましょう。子どもはその姿を見て育っていきます。

**日頃から約束や決まりを守れるような子どもを
育成しましょう！**

子どもたちは約束を守ったり、破ったりを繰り返す中で、人間関係の在り方、社会のルールの大切さが身に付いていきます。

**自然や社会体験、生活体験など五感をとおした直接的な機会を
充実させましょう！**

自然や社会体験、生活体験などの直接体験を充実させ、その体験の中で試行錯誤を繰り返したり、新たな知識を発見したりすることなどの積み重ねにより、子どもたちの心が豊かに育っていきます。



大人と子どもがともに学びましょう！

○テレビニュースや新聞等で報道されるネット社会の現実を具体的に理解しましょう。

現実社会で、友だち同士における冗談はネット社会では通用しません。実際に「いたずらで…」 「冗談のつもりで…」 などとネット上で事件を起こして逮捕されている例もあります。

ネット上では自分でも知らず知らずのうちに法を犯していることが現実にはありえます。

例えば、「気軽に写メを撮ってブログに掲載したらプライバシー侵害で訴えられた。」

「市販の著作物の文章を許可なくそのまま掲載したら訴えられた。」

「お店で販売されているものについてブログに悪く書いたら営業妨害で訴えられた。」…など

○「何がよくて、何がだめなことなのか、どんな影響をおこすのか」を考えましょう。

ネットでは、相手の顔が見えません。画面上だけでは人の表情や感情は伝わりにくいものです。見えないだけに怖さもあります。ましてや文字情報だけのやりとりは誤解を招く場合もあります。

インターネットの向こう側にいる人々に配慮しつつ情報を発信すること、情報の持つ危険性を認識することなどを子どもと一緒に学んでいくことが大切です。

インターネットの世界に触れる初期段階

ルールを決めましょう！

ネット環境にある機器はすべてフィリタリングサービス、ペアレンタルコントロールなどの保護者による制限を忘れずにかけてみましょう！

携帯電話を持たせるなら…（あくまでも一例です。）

- ・ 携帯電話の機能は家族間の電話とメールの最小限度とする。
- ・ 携帯電話からのサイト閲覧はしない。
- ・ 携帯電話は自分の部屋には持ち込まず、家族が一緒にいる場所でのみの使用とする。
- ・ 食事中は使用しない。
- ・ 家の外での使用は、公共のマナーを守る。
- ・ カメラや動画の撮影は、相手の許可なく使用しない。
- ・ 歩きながらや自転車、バス、電車等には乗りながらは使用しない。
- ・ 外における携帯電話は暗い場所では使用しない。
- ・ 携帯電話の使用時間は1日30分以内とし、夜9時以降は使用しない。

パソコン等におけるサイトの閲覧は…
(パソコン設置場所は家族が一緒に集う場所を想定)

- ・ 保護者が横につき、パソコンでのみの閲覧とする。
- ・ パソコンからのメールを認めない。
- ・ 夜9時以降は使用しない。
- ・ . . .



あくまでも初期段階です。保護者が横につき、子どもが見てもよいサイトを一緒に見ながら、またインターネットに関連した事故や事件などを一緒に見ながら「何がよくて、何がだめなのか」などを考えて、語り合しましょう。

また、ルールを決めることはよいことですが、決めたら終わりではなく、定期的にルールの内容を再確認をする場面を設けましょう。

フィルタリングサービスやペアレンタルコントロールなどの保護者による制限については、一律に設定するのではなく、子どもの発達の状況に合わせて、制限をかけておくものと制限を解除するものを設定しましょう。説明書等読んで、どうしても設定方法が自分でわからない場合は、携帯電話であれば各携帯電話販売店の方に相談したり、問い合わせ先が掲載してあればそこに連絡したりして、適切な設定を行きましょう。



インターネットの世界に慣れ始めた段階

ルールを決めましょう！

ネット環境にある機器はすべてフィリタリングサービス、ペアレンタルコントロールなど、発達段階に応じた保護者による制限を忘れずにかけてみましょう！

携帯電話を持たせるなら…（あくまでも一例です。）



- ・ 携帯電話の電話とメールは保護者が認める特定の人物のみとする。
- ・ 携帯電話からのサイト閲覧は制限付きで認める。
- ・ 携帯電話は自分の部屋には持ち込まず、家族が一緒にいる場所でのみの使用とする。
- ・ 電話やメール相手の時間、状況や気持ち等を考慮する。
- ・ 食事中は使用しない。
- ・ 家の外での使用は、公共のマナーを守る。
- ・ カメラや動画の撮影は、相手の許可なく使用しない。
- ・ 歩きながらや自転車、バス、電車等には乗りながらは使用しない。
- ・ 外における携帯電話は暗い場所では使用しない。
- ・ 携帯電話の使用時間は1日30分以内とし、夜9時以降は使用しない。

パソコン等におけるサイトの閲覧は…

- ・プロフ、ブログ、ホームページの閲覧のみ認める。
- ・パソコンからのメールは保護者が認める特定の人物のみとする。
- ・夜 9 時以降は使用しない。
- ・ . . .



何事も慣れてきた頃が危険なこともあります。なるべく子どもが何を見、何をしているのか注意深く見守りつつ、使用状況を把握することが大切です。

また、ルールについて子どもと内容について再確認し、現在インターネット上で問題になっていることなどを取り上げ、よいことはどういうことなのか、あるべき姿はどんな姿なのかなどをともに考え、語り合うことが必要です。

さらに保護者においても教員や保護者間で、現在インターネット上での問題やその解決策、そして普段の子どもたちの様子などの情報を共有し合い、見守る態勢をつくっておくことも大切です。



インターネットの世界に慣れた段階

ルールを決めましょう！

ネット環境にある機器はすべてフィリタリングサービス、ペアレンタルコントロールなど、発達段階に応じた保護者による制限を忘れずにかけてみましょう！

携帯電話を持たせるなら…（あくまでも一例です。）

- ・ 携帯電話の電話とメールは保護者が認める特定の人物のみとする。
- ・ 携帯電話は自分の部屋には持ち込まず、家族が一緒にいる場所でのみの使用とする。
- ・ 電話やメール相手の時間、状況や気持ち等を考慮する。
- ・ 食事中は使用しない。
- ・ 携帯電話からのサイト閲覧及び書き込みは制限付きで認める。
- ・ SNS、ブログ、プロフなど利用する際、保護者に知らせる。
（※小・中学生ではSNS、掲示板、ブログやプロフなどはしない。）

- ・ 個人情報を書き込まない。
- ・ ネットショッピングやネットオークションはしない。
- ・ 掲示板やメールなどで誹謗中傷しない。
- ・ チェーンメールなど迷惑メールは転送せずすぐに削除する。
- ・ 家の外での使用は、公共のマナーを守る。
- ・ カメラや動画の撮影は、相手の許可なく使用しない。
- ・ 違法と思えるサイトからのダウンロードやアップロード(無断掲載)はしない。
- ・ 歩きながらや自転車、バス、電車等には使用しない。
- ・ 外における携帯電話は暗い場所では使用しない。
- ・ 携帯電話の使用時間は1日60分以内とし、夜9時以降は使用しない。

パソコン等におけるサイトの閲覧は…

- ・ プロフ、ブログ、ホームページの閲覧及び書き込みを認める。
(※小・中学生ではSNS、掲示板、ブログ、プロフなどはしない。)
- ・ サイトには、個人情報や誹謗中傷を書き込まない。
- ・ ネットショッピングやネットオークションはしない。
- ・ 違法と思えるサイトからのダウンロードやアップロード(無断掲載)はしない。
- ・ パソコンからのメールは保護者が認める特定の人物のみとする。
- ・ 夜9時以降は使用しない。

慣れた段階の頃は、子どもはいろんなことをしたくなることと思います。子どもからの要望も多くなることでしょう。

しかしそうした要望をすぐに受け入れるのではなく、しっかり話し合った上で要望を受け入れるのか、そうでないのか決めて欲しいと思います。

話し合う際には、「なぜそれが必要なのか。」「何に使うのか。」「それを使うことによりどのようなことがあるのか（想定されるのか）。」など具体的にお互いが納得するまで語り合っただけで欲しいと思います。その際、要望を受け入れるなら、新たなルールが生まれることも想定されます。ルール作りも含めて検討していくことが必要です。

この段階では、ある程度子どもに任せる部分も出てきます。しかし任せっきりにせず、常に使用状況（履歴、パケット使用量、書き込み内容等）を把握しておくことも大切です。

携帯電話の使用料金が定額になっているからと安心するのではなく、定額にしなければ実際にはどれだけの料金がかかっているのか、パケット量×1パケット代で計算してみるなどし、多ければそれだけの情報量のものを見ていることになるので、そのことをもって子どもとともに考えてみることもよいかと思います。

常に使用状況と子どもの成長にとってよりよい使用ルールの見直し、ルールが破られた場合のルール作りなども含めて各家庭で取り組んでいただきたいと思います。

学校と家庭がスクラムを組んで…

情報機器、そして情報内容とその量は目まぐるしく日々進化していっています。時代の潮流に遅れまいと、この情報社会に翻弄されている面も見受けられるような印象すら受ける時もあります。

いつの時代にも不易と流行はあります。どちらかに偏ると振り子の幅が大きく振れ、その時々流され、進む方向に迷い悩むこととなります。常に振り子の真ん中に立ち、見守らなければなりません。

子どもたちの見守ることも同じです。不易と流行に流されることなくしっかり地に足を付けて見守り、健全な育成に向けて努めることは我々大人の責務だと考えます。

この社会と向き合い、これからの社会を担う子どもたちのため学校と家庭ががっちりスクラムを組み、協力し合っていくことが大切です。

そのためにお互い現在インターネット上で問題になっていること、普段の子どもたちの様子、学校での取組、家庭での様子など情報を共有し合い、またインターネット上での問題を例に取り上げその解決策や対応策を考える懇談会を開くなどすることが重要です。

子どもたち、そして我々大人も含めて望ましい情報社会の創造に参画していく態度を形成していくために、力を合わせていきましょう！

